

〔研究主題〕 自己指導能力の育成に向けた生徒指導の在り方に関する研究
 ～「学校楽しいーと」を活用した効果的な働き掛けを通して～

1 「学校楽しいーと」活用の意義

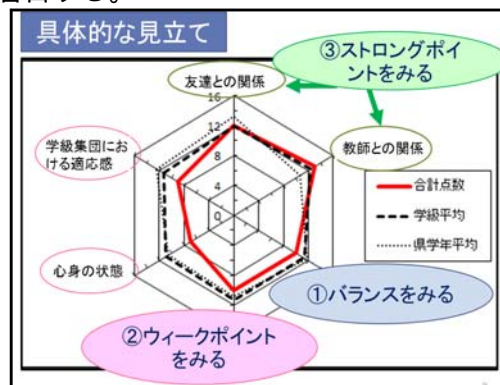
「学校楽しいーと」を活用することで、児童生徒の学校における適応感である「友達との関係」、
 「教師との関係」、「学習意欲」、「自己肯定感」、「心身の状態」、「学級集団における適応感」を客
 観的に把握することが可能である。また、「学校楽しいーと」は、短い時間での実施が可能であ
 り、実施後、すぐに指導や援助に生かすことができる。

2 「学校楽しいーと」の具体的な見立て

(1) 3視点への着目

「学校楽しいーと」を実施後、次の個票の3視点に着目する。

バランスをみる
 大きな偏りがあるかないかに着目する。
 ウィークポイントをみる
 他の観点や県や学級平均等と比べて「低い」ポ
 イントを示している観点に着目する。
 ストロングポイントをみる
 他の観点と比較して相対的に「高い」ポイント
 を示している観点に着目する。



(2) 下位項目への着目

「学校楽しいーと」の結果は、個票のレーダーチャー
 トとともに質問項目ごとのポイントが示された下位項
 目が表示されるようになっている。下位項目に着目す
 ることで、各観点中のどの項目が「低いのか・高いのか」が明確に分かる。特に「1点」を付け
 た児童生徒は、要注意であり、その要因や背景を探るとともに、早い段階で、具体的に働き掛け
 ていくことが重要である。

3 「学校楽しいーと」活用上のポイント

「学校楽しいーと」を効果的に活用するためには、以下の5視点がポイントとなる。

(1) 組織的・計画的な実施

「学校楽しいーと」を学校全体で、学期1回実施するなど、教育課程に位置付けること
 で、全職員により確実に実施されることになる。PTA等での保護者への実施説明などは
 学校全体として、児童生徒理解を積極的に進めていくという保護者への啓発につながる。

(2) 教育相談との連動

「学校楽しいーと」の結果を基に、保護者との教育相談や家庭訪問等の場で活用するこ
 とができる。相談の中で、児童生徒の気になる行動の原因等について保護者とともに話し
 合ったり、考えたりする機会とすることができる。その場で、即時に解決できなくても、
 これからの日常的な観察の中で、教師と保護者がより意識的に見守っていくことを確認す
 ることは、重要な生徒指導の方策となる。

(3) ストロングポイントの視点の共有

児童生徒が回答した結果について、特に「高い」項目については、児童生徒の「よさ」
 を表す一つとして、機会を捉えた積極的な児童生徒への関わりが必要である。「褒め、認
 め、励ます」という関わりに生かしていくことが重要である。

(4) 教師間の情報共有

学年間や教科間において教師同士の児童生徒理解を進めるための一資料として活用でき
 る。また、生徒指導の事例研修会での資料としても活用可能であり、児童生徒の気になる
 行動の背景や要因等を理解するための有効な資料として活用できる。

(5) 校種間の接続時の情報交換

「学校楽しいーと」は、小、中、高等学校が同じ観点で適応感を捉えることができるた
 め、学校接続時の資料として活用できる。児童生徒の内面を捉える資料は、新しい環境で
 の人間関係づくりや学級編制等にも活用することができる。

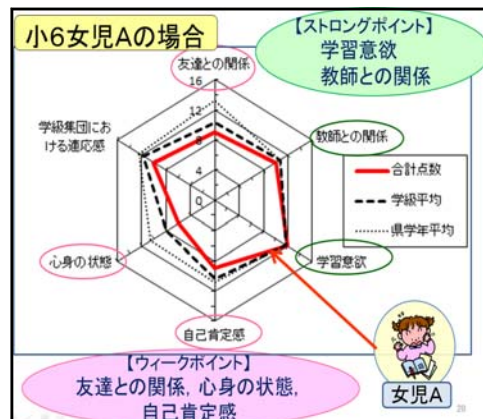
4 働き掛けのモデルプラン

(1) 「学校楽しいと」の実施，分析

「学校楽しいと」を実施し，バランス，ウィークポイント，ストロングポイントを読み取り，他教師からの情報等を併せて指導・援助の方針を立てる。例として女児Aを含めた学級集団への働き掛けを行うためのモデルプランを作成する。

分析（小6女児A）

ア バランス...特に「心身の状態」の落ち込みが大きい。
 イ ウィークポイント...「友達との関係」「心身の状態」「自己肯定感」
 ウ ストロングポイント...「教師との関係」，「学習意欲」



(2) 教育相談の対応例

小6女児Aとの教育相談の一部（例） T：教師，C：女児A

T：そうか，別にBさんに，「消しゴムを貸さないよ」とは思っていないけど，借りるときは，「借りる」とちゃんと言ってほしいし，使った後は，きちんと返してほしいと思っているんだね。Aさんは，そのことがちょっと嫌だなあと感じてしまうことがあるのかな。

C：はい...。ちょっと嫌です。

T：そういうことが嫌だなと思っているAさんの気持ちは，Bさんには，伝えたことがあるのかな？

C：...いいえ。何も言っていません。

T：そうか，言えないのは，何か理由があるからかな？

C：言にくいんです。言ったら，Bさんと気まずくなりそうで。それにBさんが「そんなに言うなら別にあなたから借りなくてもいい。」って言われそうな気がして...。

T：言うてしまうことで，Bさんとの仲が気まずいものになるのではないかと心配しているんだね。

C：そうなんです...。

T：Aさんは，どんなふうになればいいなと思っているの？

C：え...。借りるのは，別にいいんだけど。借りる時は，直接，「貸して」とちゃんと言ってほしいし，使い終わったら，やっぱり「ありがとう。」と言って直接，私に返してくれるようになるといいなと思っています。

ポイント

← Aの感情を明確にし，解決していきたいという気持ちにつなげる。

← Aの抱えている課題に向き合わせ，その要因について考える場を持つ。

← 自己決定の場を与え，「こうになりたい」という自分に気付かせる。

(3) 働き掛けのプログラム

ア 組み立て

働き掛けのプログラム 関連させる

➤ <ソーシャルスキル①> 「気持ちのよい頼み方」
相手の気持ちや立場を尊重しながら適切に頼む方法を身に付ける。

➤ <ソーシャルスキル②> 「トラブル解決法」
友達関係のトラブルの解決策を考えることで，解決策の手順を身に付ける。

➤ <ストレスマネジメント①> 「リラックス呼吸法」
「感情」に働き掛ける対処方を身に付ける。リラクゼーションの心地よさを体験する。

➤ <ストレスマネジメント②> 「さわやかな言い方」
アサーションによる対処法を体験し人間関係を円滑にする方法を身に付ける。

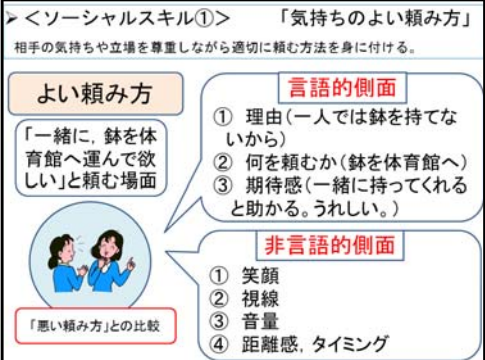
ポイント

女児Aだけではなく，学級全体の課題でもある「友達との関係」や「心身の状態」の改善に向けて，働き掛けのプログラムを計画する。

学級活動等の時間を活用し，ソーシャルスキルトレーニングやストレスマネジメントの内容を有機的に組み立てる。

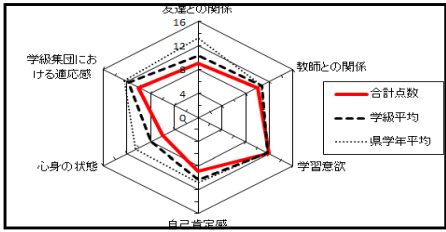
実際は，既存の授業と学校行事等と関連させ，プログラムのねらいや視点を取り入れて実施し，課題解決が図られるようにする。

イ 学級活動 「気持ちのよい頼み方」(ソーシャルスキルトレーニング)の指導例
【ねらい】相手の気持ちや立場を尊重しながら適切に頼む方法を身に付ける。
【エクササイズ名】「気持ちのよい頼み方」(学級活動)

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導入	<p>1 これまで生きてきた中で、どれだけの人の支えがあったかを想起する。(インストラクション)</p> <p>2 これまで、どんなことを他の人に頼んだことがあるかを発表する。(インストラクション)</p>	<p>人は一人では生きてはいけず、多くの人の支えがあったことに気付かせる。</p> <p>友達や家族、先生や他の人など自分以外の人に「頼むこと」は誰にでもあり、その際には、「頼み方」(どのように頼むか)が大切になることに気付かせる。</p>
展開	<p>ポイント【気付かせる】</p> <p>3 頼み方の二つの例(よい例と悪い例)を示し、言語的・非言語的側面においてどのような違いがあるかを考える。(モデリング)</p> <p>4 受け取る側の気持ちを比べる。</p> 	<p>グループ内で、気付いたことに付箋を貼るという活動を通して「よい例」には、言語的側面として(理由 何を頼むか 実施できるとどうなるかの期待感)が入っていることに気付かせる。</p> <p>非言語的側面としては、(笑顔で 相手を見て適切な音量で 適切な距離感で 適切なタイミング)で伝えていることに気付かせる。</p> <p>受け取る側の印象が、「頼み方」で全く異なっていることに気付かせる。</p>
	<p>ポイント【ロールプレイング】</p> <p>5 「頼む」場面を3パターン想定し、相手にとって気持ちのよい頼み方を考え、練習する。(リハーサル)</p> <p>6 グループの代表者が、学級全員の前で「頼み方」の場面を発表する。参観者は、うまくできていたことを発表する。</p>	<p>役割を交代させながら、「頼んだり、頼まれたり」という体験をすることで、実際の言い方を練習したり、相手から頼まれた時の受ける感じを体感したりすることができる。</p> <p>「頼む場面」を想定し、ロールプレイングさせる。</p> <p>重い荷物を一緒に運んでほしい 児童会室の場所を教えてほしい 学習で、分からない所を教えてほしい</p> <p>グループで「頼む場面」を考えさせてもよい。頼み方が決まったら、グループ内で、役割を交代しながら頼む練習をさせる。終わったら、全体でシェアリングさせる。</p> <p>頼まれた人は、「いいですよ。」と返すようにする。</p>
終末	<p>ポイント【シェアリングする】</p> <p>7 「気持ちのよい頼み方」を学習しての気付きや思ったこと、考えたことなど感想を発表する。</p> <p>8 自分を振り返る。(フィードバック)</p>	<p>授業で学んだ「気付き」や「発見」、「新しく考えたこと」、これまでの自分を振り返っての「気付き」などの感想を出し合い、皆で共有することを「シェアリング」という。シェアリングを通して、自己理解や他者理解も深まっていく。</p> <p>「いいですよ。」と返してもらえない時の方法を考えさせる。</p> <p>今日、学んだことを基に自分の言動を振り返らせ、日記に書かせたりする。</p>

- ◆ ソーシャルスキルトレーニング
 良好な人間関係をつくり、保つための知識と具体的なコツを身に付けるためのトレーニング
- ◆ ストレスマネジメント教育
 ストレスの本質を知り、ストレスに対する自己コントロールの力を回復したり、高めたりすることを目的とした教育的な働き掛け

ウ 学級活動 「さわやかな言い方」(ストレスマネジメント教育)の指導例
 【ねらい】 ロールプレイングを通して、アサーションによる対処法を知り、体験し、人間関係を円滑にする。
 【エクササイズ名】 「さわやかな言い方」(学級活動)

過程	主な学習活動	指導上の留意点
導 入	<p>ポイント【気付かせる】</p> <p>1 学級全体の「学校楽しいーと」の「友達との関係」を知る。</p> 	<p>学級のレーダーチャート「友達との関係」を示し、自分の場合を振り返らせる。</p> <p>実施した「学校楽しいーと」の学級のレーダーチャート(友達との関係)を示し、全体の傾向を捉えさせる。あわせて、自分の場合を振り返らせ、改善したい所やもっと深めていきたいことに気付かせる。</p>
	<p>2 友達との対応の仕方によって、ストレスになることについて話し合う。</p>	<p>対応の仕方を学ぶことで、友達関係がより深まっていくことに気付かせる。</p>
展 開	<p>ポイント【ロールプレイング】</p> <p>3 場面を設定し、対応の仕方を考える。</p> <p>攻撃的な対応(アグレッシブ行動) 「嫌だ。一緒に遊べるわけないよ。」 はっきりせず無理をして我慢をする対応(ノンアサーティブな行動) 「え...。でも...、うん...分かった。」 相手への配慮も行い、自分自身の主張もする対応(アサーティブな行動) 「ごめん。今日は用事があって一緒に遊べないんだ。でも、誘ってくれてありがとうね。今度、一緒に遊ぼうね。」</p> <p>4 3人組でロールプレイング(本人、友達、観察者)を行い、気付いたこと、感じたことをシェアリングする。</p>	<p>「あなたには、今日、早く家に帰って頼まれていることをしないとイケない。けれど、友達のA君が、『今日、一緒に遊ぼう。』と誘ってきた。」という場面を設定し、その時の対応の仕方を考えさせる。</p> <p>対応例を個人で考えさせた後、グループで出し合わせる。</p> <p>グループで出された対応例を発表させ、左の3種の方法に分類させる。</p> <p><対応場面例></p> <ul style="list-style-type: none"> 「体操服を貸してほしい。」と言われたが、自分もこれから必要で貸すことができない場面。 毎回、「宿題を見せて。」と言われ、困っている場面。 急に用事ができて自分との約束を破った友達への対応場面。
	<p>ポイント【シェアリングする】</p> <p>5 エクササイズを通して、気が付いたこと、思ったことをシェアリングする。</p> <p>アサーション4原則では、自分を大切にしながら、相手の気持ちも考えた行動が取れるようにするためのポイントについて触れている。これは、自己指導能力を育成するための大切なポイントでもある。</p>	<p>アサーションの4原則を知らせ、練習していくことの大切さを理解させる。</p> <p>自分のことは責任を持って自分で決める。 自分の気持ちに正直になる。 自分の権利を守るため行動する。 人の権利を守る。</p>

アサーショントレーニング
 自分と相手、互いの人権を尊重した上で、自分の意見や気持ちをその場にふさわしく表現できるようにするトレーニング
 アサーティブな方法
 自分のことを大切にしながら、相手のことも考慮した自己表現の方法

【引用・参考文献】
 國分康孝監修
 大野太郎ほか
 藤原忠雄編

『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる 小学校』平成13年 図書文化
 『ストレスマネジメント・テキスト』平成14年 東山書房
 『学校で使える5つのリラクゼーション技法』平成18年 ほんの森出版

【平成24年度調査研究発表会】

第8分科会（教育相談課）研究発表

自己指導能力の育成に向けた生徒指導 の在り方に関する研究

～「学校楽しいと」を活用した効果的な働き掛けを通して～

鹿児島県総合教育センター

1

発表内容

I 「学校楽しいと」活用の意義

II 「学校楽しいと」の具体的な見立て

III 「学校楽しいと」活用上のポイント

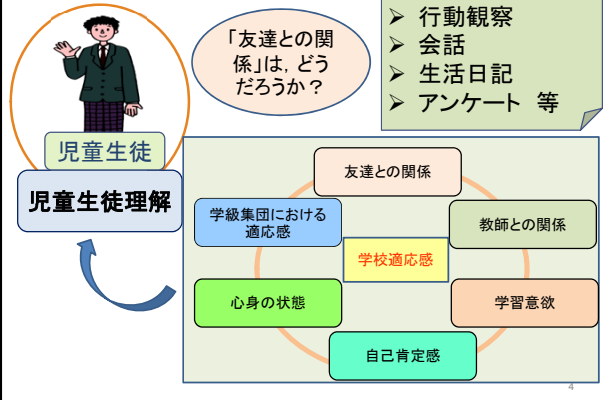
IV 働き掛けのモデルプラン

2

I 「学校楽しいと」活用の意義

3

活用の意義



4

活用の意義



児童生徒

児童生徒理解

質問紙 「学校楽しいと」

- ① 短い時間で実施可能
- ② 児童生徒の適応感を客観的に把握
- ③ 指導・援助への早期対応が可能



多面的・総合的な
理解が可能

個人

学級集団



II 「学校楽しいと」の具体的な見立て

6

具体的な見立て

個票

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

レーダーチャート

具体的な見立て

個票

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

レーダーチャート

具体的な見立て

個票

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

レーダーチャート

具体的な見立て

個票

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

下位項目

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

下位項目に着目する

個票

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

下位項目

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

下位項目に着目する

個票

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

下位項目

項目	合計	学級平均	学年平均
1 友達との関係	12	11.2	11.2
2 学級集団における適応感	11	11.2	11.2
3 学級平均	10	11.2	11.2
4 自己肯定感	10	11.2	11.2
5 心身の状態	9	11.2	11.2
6 学習意欲	11.5	11.2	11.2

下位項目に着目する

点数	解説	質問	点数
3	教師との関係	21 学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	3
3	教師との関係	22 学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	4
3	教師との関係	23 学校には、自分が面白いや失敗しても、きちんと話を聞いてくれる先生がいる。	2
3	教師との関係	24 学校の先生とは、自分に対してみんなと同じように平に接していると思う。	2
3	教師との関係	25 委員会活動や(課外)活動での自分の仕事	3
2	MEMO	26 気分が重くなることがある。	2
2	MEMO	27 友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	2
2	MEMO	28 友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	2

【ストロングポイント】 **【教師との関係】**

○ どの項目が特に「高い」のかに着目する。

➢ 「学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。」 ... **4点**

具体的な見立て

個票 **レーダーチャート**

下位項目

項目	点数	質問	点数
1	3	学校には、気軽に話せる友達がいる。	3
8	3	学校には、気軽に話ができたり遊びができてたりする友達がいる。	3
14	3	学校には、自分の悩みや本音の気持ちを話せる友達がいる。	3
20	3	自分が困っていると助けけてくれたり協力してくれたりする友達がいる。	3
21	3	学校には、悩みや心配を相談できる先生がいる。	3
22	4	学校には、自分のことを理解してくれる先生がいる。	4
23	2	学校には、自分が面白いや失敗しても、きちんと話を聞いてくれる先生がいる。	2
24	2	学校の先生とは、自分に対してみんなと同じように平に接していると思う。	2
25	3	委員会活動や(課外)活動での自分の仕事	3
26	2	気分が重くなることがある。	2
27	2	友達から物を隠されたり、暴力を振るわれたりしてつらい思いをすることがある。	2
28	2	友達から悪口を言われたり、無視されたりしてつらい思いをすることがある。	2

児童生徒

担任

個票

メモ欄

3

⑦ 教師との関係、学習意欲は高い。

⑧ 心身の状態、集団における適応感は低い。

⑨ もっと自分に自信があると思っていた。

⑩ 保健室に来るようになった。(養護教諭情報)

記録する

○ 「気付いたこと」「気になること」をメモ欄に書き込む。

⑦ 教師との関係、学習意欲は高い。

⑧ 心身の状態、集団における適応感は低い。

⑨ もっと自分に自信があると思っていた。

⑩ 保健室に来るようになった。(養護教諭情報)

Ⅲ 「学校楽しい」と活用上のポイント

活用上のポイント

- ① 組織的・計画的な実施
- ② 教育相談との連動
- ③ ストロングポイントの視点の共有
- ④ 教師間の情報共有
- ⑤ 校種間の接続時の情報交換

① 組織的・計画的な実施

生活目標	指導内容	主な行事	「学校楽しいと」の活用
4月	生徒指導の年間指導計画		
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			

【教職員の共通理解・共通実践】

- 教育課程に位置付ける。
- 年間を通して、児童生徒理解を図っていく。

「学校楽しいと」2回目の実施

- 保護者への啓発に生かす。

② 教育相談との連動

生活目標	指導内容	主な行事	「学校楽しいと」の活用
4月	生徒指導の年間指導計画		
5月			
6月			
7月			
8月			
9月			
10月			
11月			
12月			

【教育相談】

- 児童生徒との教育相談
- 保護者との教育相談

「楽しいと」を通して見取ったことを気付かせながら、共有し、解決していく。

チャンス相談

21

③ ストロングポイントの視点の共有

【児童生徒のよさを知る】

- 「褒め、認め、励ます」機会にする。
- 課題を解決していくきっかけにする。

22

④ 教師間の情報共有

学年会、生徒指導部会等

多面的な理解やスピーディーで組織的対応が可能となる。

- 担任は情報提供を行い、他教師との情報交換を行う。
- 注意喚起を図り、意識的な観察を行う。
- 新たな情報を依頼する。

23

⑤ 校種間の接続時の情報交換

小学校 中学校 高校

友達との関係
教師との関係
自己肯定感
学習意欲
心身の状態

学級集団における適応感

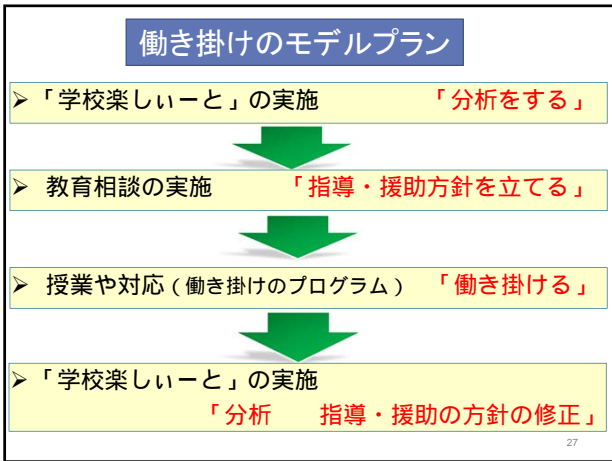
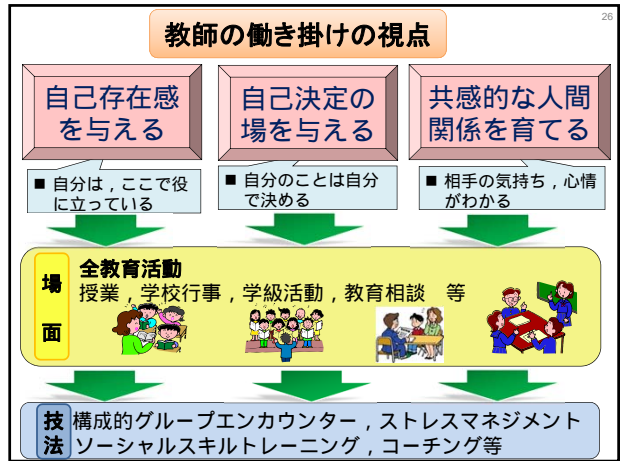
【12年間、同じ視点で児童生徒の適応感をみていくことが可能】

- 連絡会における情報交換の資料としても活用
- 効果的な働き掛けを継続するなどの情報共有

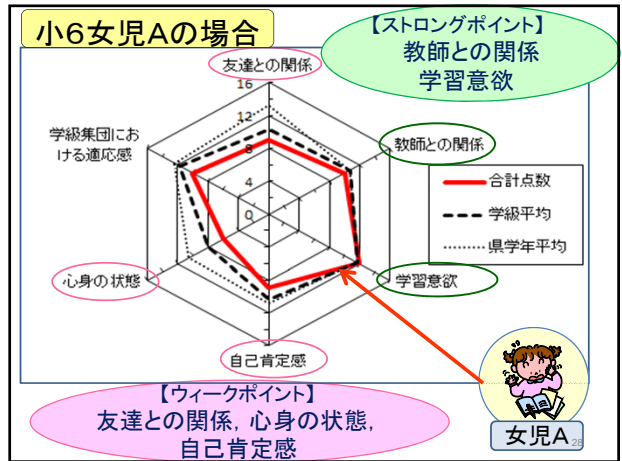
24

IV 働き掛けのモデルプラン

25



27



教育相談の実施 T:教師, C:6年女兒A

T:よく来てくれたね。最近、Aさんは、体調が悪いことが少しあるみたいだから、先生も気になっていたところなんだよ。今日は、一緒に考えてみて、少しでも解決できたらと考えているんだ。

C:…あっ。はい。

「学校楽しいーと」による見取りから教育相談につなげる。

29

教育相談の実施 T:教師, C:6年女兒A

T:よく来てくれたね。最近、Aさんは、体調が悪いことが少しあるみたい

【見取ったことから、本人の気付きへつなぐ】

T:「体調が悪い」というのは、どんな感じ？

C:お腹が痛くなったり、もやもやした感じ…

T:そうなんだ。いつの時間帯にそうなるの？

C:朝、学校へ行く前とか、寝る前とか…

T:何か、今、気になっていることがあるのかな？

C:ええ。ちょっとなんですけど…

T:よかったら話をしてみない。一緒にその解決策を探していけたらいいと思うのだけれど。

教育相談の実施 T:教師, C:6年女児A

【他の要因について, 自分の思いを語らせる】

C: Bさんは, 勝手に私の消しゴムを借りることがあるんです。
 T: ほお, それで。
 C: 借りるのはいいですけど, 何も言わないで, 勝手に借りていったりするのはい...

31

教育相談の実施 T:教師, C:6年女児A

T: そうか, 別にBさんに, 「消しゴムを貸さないよ」とは思っていないけど, 借りるときは, 「借りる」ってちゃんと言って欲しいし, 使った後は, きちんと返してほしいと思っているんだね。Aさんは, その

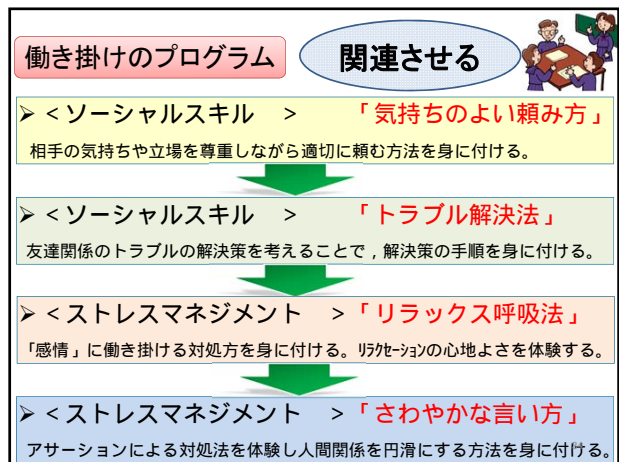
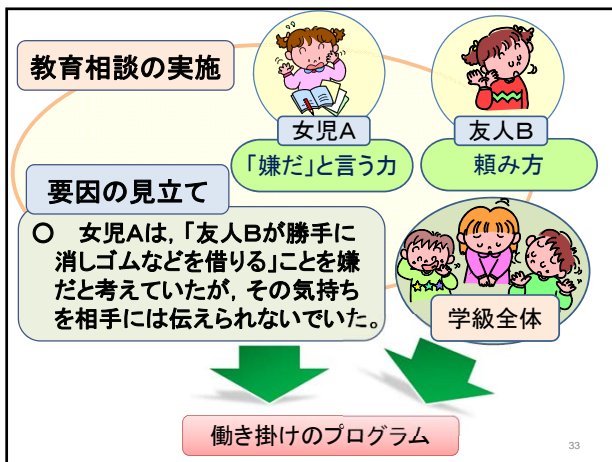
【自分の課題に向き合わせる】

T: そういう嫌だなと思っているあなたの気持ちは, Bさんに伝えたことがあるのかな?
 C: いいえ, 言っていないんです。

【目標設定の場をもつ】

T: Aさんは, どんなふうになればいいと思っているの?
 C: 借りるなら, 「貸して。」とちゃんと言ってほしいし, ...。

32



> <ソーシャルスキル> 「気持ちのよい頼み方」
 相手の気持ちや立場を尊重しながら適切に頼む方法を身に付ける。

<指導の流れ>

【気付けさせる】

○ 「頼み方」のよい例と悪い例を示し, 言語的・非言語的側面の違いを考える。

4 受け取る側の気持ちを比べる。
 5 「頼む」場面をパターン想定し, 相手にとって気持ちのよい頼み方を考え, 練習する。(リハーサル)
 6 グループ内の代表者が, 学級全体の前で「頼み方」を発表する。学習者は, うまくできていたことを発表する。
 7 「気持ちのよい頼み方」を学習しての気付きや思ったこと, 考えたことなどを発表する。
 8 自分を振り返る。(カードブック)

35

> <ソーシャルスキル> 「気持ちのよい頼み方」
 相手の気持ちや立場を尊重しながら適切に頼む方法を身に付ける。

よい頼み方 「一緒に, 鉢を体育館へ運んでほしい」と頼む場面

言語的側面

① 理由(一人では鉢を持ってないから)
 ② 何を頼むか(鉢を体育館へ)
 ③ 期待感(一緒に持ってくれると助かる。うれしい。)

非言語的側面

① 笑顔
 ② 視線
 ③ 音量
 ④ 距離感, タイミング

「悪い頼み方」との比較

36

> <ストレスマネジメント> 「リラックス呼吸法」
「感情」に働き掛ける対処法を身に付ける。リラクゼーションの心地よさを体験する。

【気付かせる】
○ 学級全体の「学校楽しい」との「**心身の状態**」のレーダーチャートを示し、自分の場合を振り返らせる。

> <ストレスマネジメント> 「リラックス呼吸法」
「感情」に働き掛ける対処法を身に付ける。リラクゼーションの心地よさを体験する。

【考える】
○ リラックスする方法をグループで出し合い、まとめる。

好きなことが一番！

> <ストレスマネジメント> 「さわやかな言い方」
アサーションによる対処法を体験し人間関係を円滑にする方法を身に付ける。

【気付かせる】
○ 学級全体の「学校楽しい」との「**友達との関係**」のレーダーチャートを示し、自分の場合を振り返らせる。

> <ストレスマネジメント> 「さわやかな言い方」
アサーションによる対処法を体験し人間関係を円滑にする方法を身に付ける。

【ロールプレイング】
○ 攻撃的な対応、ノンアサーティブな対応、アサーティブな対応を考え、体験し、シェアリングする。

「一緒に遊ぼう。」と友達に誘われたが、別に、用事がある時の対応。

グループで出された対応例を順番に読み、各グループでロールプレイング（本人、友達、観客等）を行い、良かったこと、感じたことをシェアリングする。

- ① 攻撃的な対応 (嫌！遊べるわけない)
- ② ノンアサーティブな対応 (はっきりせず、無理して我慢する対応)
- ③ アサーティブな対応 (自分も相手も配慮した対応)

> <ストレスマネジメント> 「さわやかな言い方」
アサーションによる対処法を体験し人間関係を円滑にする方法を身に付ける。

【アサーション4原則を知る】

- ① 自分のことは責任を持って自分で決める。
- ② 自分の気持ちに正直になる。
- ③ 自分の権利を守るために行動する。
- ④ 人の権利を守る。

働き掛けのプログラム

全ての教育活動

> <ソーシャルスキルトレーニング> 「頼み方」
相手の気持ちに配慮する。

> <ソーシャルスキルトレーニング> 友達関係
友達関係を築く。

> <ストレスマネジメント> 「感情」に働き掛ける
「感情」に働き掛ける対処法を身に付ける。

> <ストレスマネジメント> 「さわやかな言い方」
アサーションによる対処法を体験し人間関係を円滑にする方法を身に付ける。

今後に向けて

「学校楽しいーと」の更なるデータと実践の蓄積

効果的な働き掛けの事例の収集と分析

小学校における「学校楽しいーと」を活用した生徒指導の実践

1 児童の実態と生徒指導上の課題

(1) 児童の実態 (:よさ, :課題)

基本的な生活習慣や自己学習力が身に付きつつある。

自ら挨拶する子どもが少しずつ育ってきている。

「夢」に向かって頑張ろうとする子どもが育ちつつある。

自己を表現することが苦手である。

(2) 生徒指導上の課題

これまで、児童理解のために日々の児童観察や定期的な実態調査を行うなどしてきたが、個人や全体の傾向をつかむための集計作業に時間がかかり、問題行動等に対応することはできても、児童一人一人としっかり寄り添って対応できるところまでは至っていない。また、問題行動の事例や心身の面で特別な支援が必要な児童も問題行動等を繰り返す傾向があり、その対応についても課題である。

2 実践内容

(1) 「学校楽しいーと」活用を核にした年間指導計画の作成

「学校楽しいーと」の活用については、以下の流れで現在行っている。

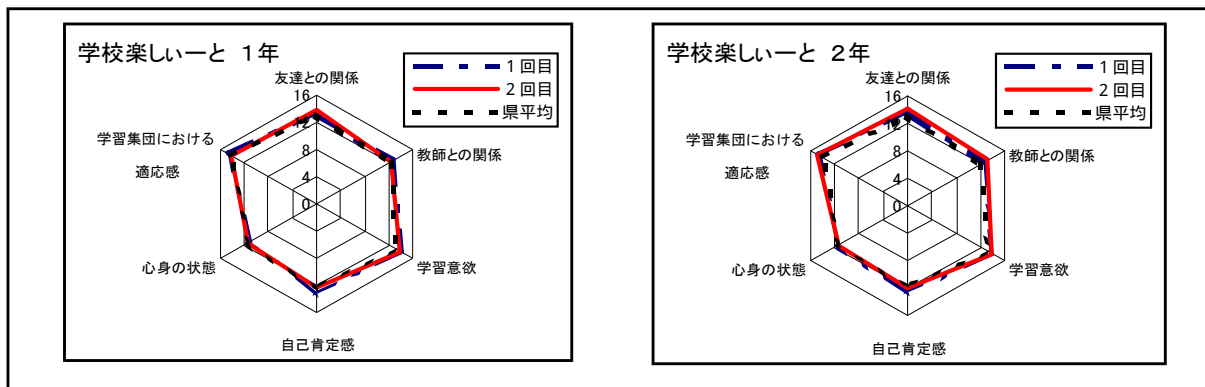
昨年度末に「学校楽しいーと」を全学年で実施できるよう平成24年度の教育課程に位置付けた(図1参照)。

小学校第5学年「学校楽しいーと」活用の年間指導計画

	生活目標	基本的な生活指導	主な行事	学年・全体での活動	「学校楽しいーと」の活用
4月	学校のきまりを守りましょう	気持ちのよい挨拶や返事 生活のしおりの確認 持ち物への記名	・始業式、入学式 ・交通教室 ・いじめ問題を考える週間	職員会議 第1回生徒指導対策委員会 職員研修「生徒指導事例研修」 子どもを語る会(5・6年) 校区内生徒指導巡回	職員会議にて「学校楽しいーと」を活用することの確認 「学校楽しいーと」の内容の説明 「学校楽しいーと」の内容と実施方法の説明
5月	遊びのきまりを守りましょう	安全な遊び方	・授業参観 ・スケッチ大会 ・家庭訪問 ・一日遠足	学級活動 子どもを語る会(4年)	1回目の「学校楽しいーと」の実施(全学年)
6月	安全に気をつけましょう	正しい歩行(廊下・階段)	・日曜参観 ・教育相談(児童対象)	第2回生徒指導対策委員会 子どもを語る会(3年)	「学校楽しいーと」の結果報告
7月	校内をきれいにしましょう	校外での遊び	・終業式 ・教育相談(保護者)	学級活動 子どもを語る会(1・2年)	2回目の「学校楽しいーと」の実施(2～6年)
8月	計画を立てて楽しい夏休みを過ごそう	夏休みのきまり	・教育相談(保護者)	校外補導	「学校楽しいーと」実施についてのアンケート
9月	チャイムの合図を守りましょう	集団行動	・始業式 ・芸術鑑賞会 ・いじめ問題を考える週間	子どもを語る会(5・6年) 第3回生徒指導対策委員会 校区内生徒指導巡回	
10月	礼儀正しくしましょう	明るい挨拶と返事・言葉遣い	・秋季大運動会 ・一日遠足 ・修学旅行	学級活動 子どもを語る会(4年) 第4回生徒指導対策委員会	2回目の「学校楽しいーと」の実施(1年)
11月	進んで本を読みましょう	図書館のきまり	・「心の教育の日」参観 ・集団宿泊学習	子どもを語る会(2・3年) 第5回生徒指導対策委員会	
12月	寒くても元気に過ごしましょう	病気に負けない体づくり	・教育相談(保護者)	学級活動 第7回生徒指導対策委員会	3回目の「学校楽しいーと」の実施(全学年)
1月	身の回りの整理整頓をしましょう	使用した物の整理整頓	・授業参観 ・お別れ遠足 ・卒業式、修了式	職員会議 第8回生徒指導対策委員会	「学校楽しいーと」の反省と来年度の確認

(2) 「学校楽しいーと」による児童の実態把握

2回実施した「学校楽しいーと」の学年平均結果は以下のとおりである。



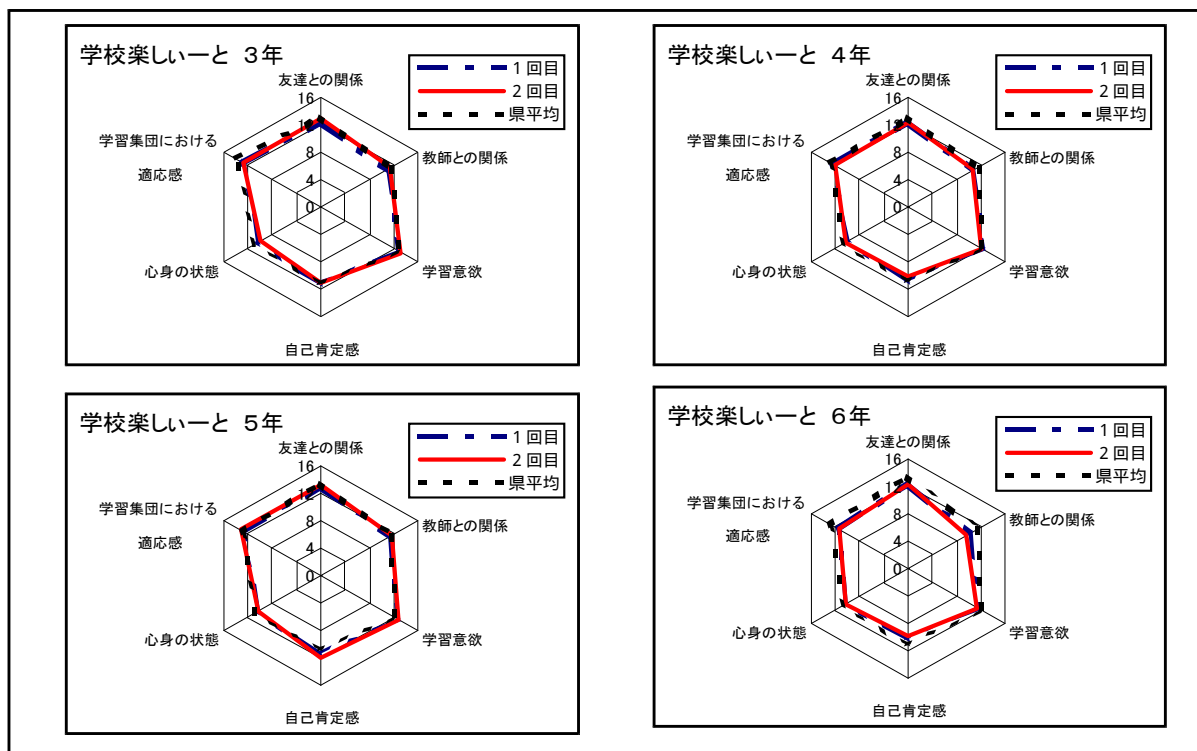


図1 「学校楽しいーと」の学年平均

1回目の結果を受け、学年会で、気になる児童の情報交換を行うとともに、学年全体で共通に取り組む内容と学級の特徴に応じた取組を行うことを話し合い、実践した。

(3) 学年会における「教師の関わり方」の気付きからのアプローチ

ア 下学年における取組

「学校楽しいーと」の結果から、児童の「心身の状態」や「自己肯定感」が低いことが気になり、教師の関わり方について改めて話し合った。すると、忘れ物など臍面をできるまでさせようとするあまり「叱る」ことが多くなっていることに気付いた。そのため、「忘れ物」については、声かけだけではなく、チェック表を作成したり、学級通信で準備する物を詳しく載せたりするなど工夫することにした。その結果、忘れ物なども減少し、「叱る」ことも少なくなってきた。

また、帰りの会において自分のよさに気付いたり、賞賛したりする場を意図的に増やした。その結果、他者から賞賛される喜びにより児童の善行も増えてきた。さらに、学級PTAでも認める機会や褒める機会、スキンシップの大切さについて話題にすることで、学校と家庭が一体となって、児童を認め、励ます機会が増えてきた。2回目に実施した「学校楽しいーと」の結果では、「心身の状態」と「自己肯定感」、「教師との関わり方」も好転した。

イ 上学年における取組

学級担任と相談の上、以下の2名の児童を取り上げ、「学校楽しいーと」の結果を分析し、指導・援助方針を立て取り組み、児童生徒の変容を捉えるようにした。

A児 ... 不登校傾向にあり、教室に入るまで時間がかかり、学習面や交友関係に支援が必要な児童。

B児 ... 「心身の状態」を除く他の観点が全て低く、学習面や交友関係に支援が必要な児童。

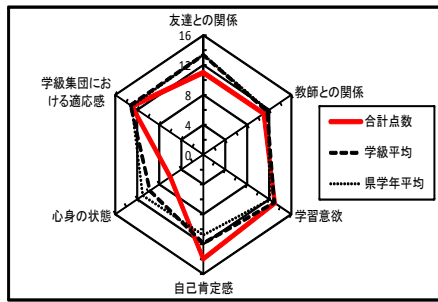


図2 児童Aの状況（5月）

【1回目】(A児)

朝のスタートがまずしっかりできるよう、生活習慣の見直しを保護者へお願いした。少しずつ協力も得られ、登校時刻を守れる日も増えた。

【働き掛け】

保護者への協力依頼（生活習慣の見直し）
ペア学習を取り入れ「分からないところ」を友達に聞く場面を取り入れる。

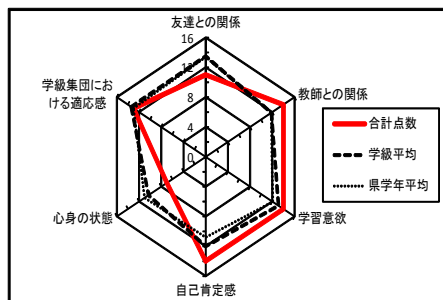


図3 児童Aの状況（7月）

【2回目】(A児)

授業で分からないことなど、担任に尋ねられるようになった。また、少しずつではあるが、友達とも会話したり、遊んだりする場面も見られた。

表1 児童Aの6観点の変容

区分	5月	変容	7月
友達との関係	11	→	11
教師との関係	11	↗	14
学習意欲	13	↗	14
自己肯定感	14	→	14
心身の状態	6	↗	7
学級適応感	12	↗	13

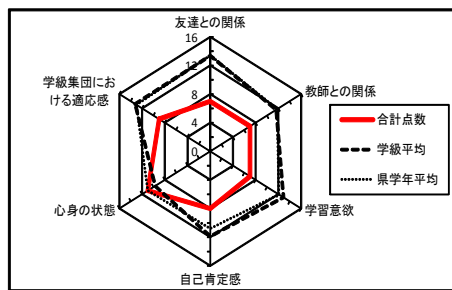


図4 児童Bの状況（5月）

【1回目】(B児)

「心身の状態」を除き、全観点が学級平均を下回った。ペアになると、一人になってしまうことがあった。

【働き掛け】

班活動を取り入れ、自分の考えを友達の前で表現する機会を増やす。
褒め、認める場面を増やす。

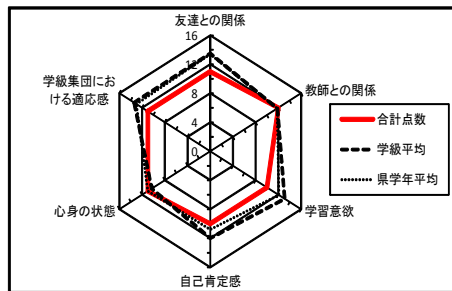


図5 児童Bの状況（7月）

【2回目】(B児)

授業中の学習意欲も見られ、宅習もしっかり行うようになった。成績も向上し、友達との交流をもてるようになった。

表2 児童Bの6観点の変容

区分	5月	変容	7月
友達との関係	7	↗	11
教師との関係	7	↗	12
学習意欲	7	↗	10
自己肯定感	8	↗	10
心身の状態	11	→	11
学級適応感	9	↗	11

(4) 教育相談の充実

本校では以下の4点を努力点として、教育相談の充実に努めている。

日常の教育活動のあらゆる機会と場を利用して、いつでも教育相談ができるようにする。
学校と家庭との連携を密にして、教育相談の充実に図る。
校長、教頭、生徒指導係、教育相談係、養護教諭、担任等による報告・連絡・相談など連携を密にし、教育相談の充実に図る。
関係機関・団体との連絡を取り合い、連携して教育相談が進められるようにする。

ア 児童対象(子どもと語ろう会): 6月

6月は、日常の観察を通して、随時必要と思われる児童を対象に行う臨時相談ではなく、教育相談月間として、児童を対象に定期相談(子どもと語ろう会)を実施した。1回目の結果を受け、まず現在の状況(不安や悩み等)を把握し、受容的な態度で実施した。

これまでも行っていた児童との教育相談であったが、個票から現在の状況を把握することができたため、児童からの聴き取りだけではなく、担任が見取ってきた児童の「よさ」を認め、自己解決を促す「言葉掛け」も行うことができた。

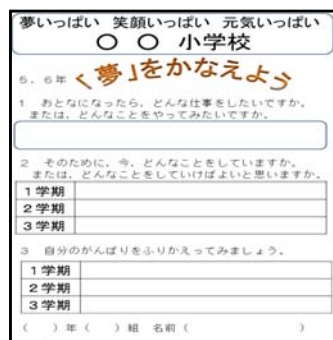
イ 保護者対象(子どもを語ろう会): 8月

「学校楽しいーと」を1学期に2回実施したことで、学校での様子など児童の変容を伝える資料となった。また、夏季休業中に実施したこともあり、夏休み中の家庭における学習・生活面の目標設定や2学期に向けての共通実践事項を確認することができた。なお、個票は保護者に見せずに教師の手持ち資料として活用した。

(5) 「夢実現にチャレンジ」との連動

これまで夢実現にチャレンジする児童を育成するために、「『夢』は、子どもが成長する大切なエネルギーである」を理念とし、学校と家庭等が連携しながら取り組んできた。しかし、自分のよさに気付かず、継続して追求する姿があまり見られないという課題があった。

「学校楽しいーと」を実施し、自分を見つめる場や機会を数多く設定することで、どの児童も自分の夢や目標に向けて勉強やスポーツなど様々なことに、毎日一生懸命に取り組む姿が見られるようになってきた。また、児童の日記には、自分の努力する姿だけではなく、友達の頑張りへの賞賛や友達のよさを書いたものが増えてきている。



【『夢』をかなえよう」カード】

表面：自分の夢や目標とそれを実現するために努力すること、自己評価(振り返り)
裏面：担任や保護者の励ましなど



【校長室前の廊下に掲示したカード】

自分の夢を見つけて指さしたり、友達の夢を興味深そうに眺めたりして自分の夢や目標を人に知ってもらうことにより、実現に向けての自覚や意識が高まってきている。

(6) P T Aとの連携

学校の生活指導上の取組に関しては、学級P T Aや学校便り等を通じて保護者等に対して周

知を図り、学校教育に関心をもってもらい協力をいただいている。「学校楽しいーと」の1回目の結果から第2学年以外、「心身の状態」が県平均よりも低いことが分かり、本年度は「学校楽しいーと」の結果と関連付けて次のように取り組んだ。

ア 学級保健目標の設定（PTA保健体育部を中心に）

第1回学校保健委員会で「早寝・早起き・朝ごはん」を中心に学級目標を設定し、取り組むことが確認され、その目標を達成するため各学級では具体的な方策を立て取り組んでいる。

【5年生の取組】 目標：朝ごはんをしっかり食べよう!! 「一日の始まりは朝ごはん」生活実態調査（就寝時間、起床時間、テレビ視聴時間、家庭学習時間など）の実施
栄養バランスを考えた朝食の紹介

5学年では「心身の状態」を高めるためには、規則正しい生活習慣を確立させることが大切であると考え、生活実態調査を実施後、目標を設定した。目標を達成できているか、道徳の学習や宅習（生活実態記入欄）等を通して、振り返りを行い、目標の見直しも行わせている。

イ いじめの早期発見に向けたアンケートの実施

9月の「いじめ問題を考える週間」に合わせて、保護者を対象に「いじめの早期発見に向けたアンケート」を実施した。家庭でも「いじめ問題」について話題にしてもらうとともに、問題を共有化し、早期発見・解消に努めている。また、アンケートについては学級ごとにまとめ、生徒指導対策委員会で報告するとともに、担任一人で抱え込むことがないように学年等組織で対応している。アンケート回収率は平成23年度：93.5%、平成24年度：97.8%となり、「いじめ問題」に対する保護者の意識も高まってきている。

3 成果と課題

(1) 成果

学校全体で「学校楽しいーと」を実施したことで、本校の児童の実態を把握し、指導上の問題点や指導方法を共通理解するなど、本校の教育活動全体を振り返る機会となった。

「学校楽しいーと」を実施したことで、児童の日頃の様子だけでは見えない部分も知ることができ、児童一人一人の状況を客観的に理解することができた。また、個別に結果が出るので、個に応じた対応ができた。

「学校楽しいーと」を2回実施したことで、児童の心の変化を見ることができ、実態を理解する上で、とても役立った。また、教育相談において、保護者に児童の様子を伝える上での資料となり、効果的であった。

自分の生徒指導上の課題、学級経営を見直す機会となり、児童理解の重要性を改めて感じ、具体的な実践を行うことができた。

(2) 課題

「学校楽しいーと」は、低学年児童にとっては質問項目が多く、1回目は内容説明に時間がかかった。また、低学年の児童にとって「お腹、頭、気分」が悪くなるという質問は、ただ体調が悪いのか、それとも心の状態が反映しているのか見極めが難しかった。

「友達との関係」、「学級集団における適応感」のポイントが低い児童が安心して学校で過ごせるように、支援の仕方を考えていく必要がある。

今後、回数を重ね、日々児童がどのように変化しているのかを理解し、教師が具体的な取組をしていく必要がある。

中学校における「学校楽しいーと」を活用した生徒指導の実践

1 本校における生徒指導上の課題

本校の生徒指導に関する現状を見ると大きな問題行動はあまり見受けられない。しかし、配慮の足りない言動で相手を傷つけたり、友人間のトラブルに発展したりして、集団生活に順応できず不登校や不登校傾向に陥る生徒もいる。

一方、様々な学校行事に対する生徒の取組は概ね良好であるが、やや主体性や積極性に欠ける側面も見られる。また、日々の教育活動において、グループ活動や話し合い活動を苦手とする生徒が多く見られることや自分の意見を表現することが不得手で、学習集団として生徒相互に協力して高め合えていないことが、本校の課題でもある。

これらの課題解決にあたっては、教職員の共通理解のもと、生徒に継続的に関わっていくことが重要である。そこで、ここでは、課題解決のために、「学校楽しいーと」を使って、生徒理解のための十分な実態把握と丁寧な分析を行い、個に焦点を当てた2年間の生徒の変容を通して、どのように教師が関わってきたのかについて述べる。

2 実践内容

(1) 「学校楽しいーと」による検証

今回の調査対象となる2年生は、昨年度も、当教育センターとの連携により、「学校楽しいーと」を実施しており、本年度がその2年目にあたる。

本実践では、特に、個に焦点を当てた取組について、「学校楽しいーと」から捉える生徒の変容について、教師との関わり方の観点から検証していく。なお、「学校楽しいーと」は、昨年度と同時期の11月に行っている。

(2) 個への対応(生徒A:2年)

【生徒Aの概要(1年時の状況)】

生徒Aは明るく、周囲から注目を浴びるのを好む生徒であった。学級集団の中でも非常に存在感があったが、教師にとっては気になる生徒であった。集団の中に埋もれてしまうことを嫌い、場にそぐわない発言や行動をとってしまう回数が増えていくこともあった。また、すぐに感情的になり、教師の指導を素直に聞き入れない状況もあった。

【「学校楽しいーと」の結果による生徒Aの変容】

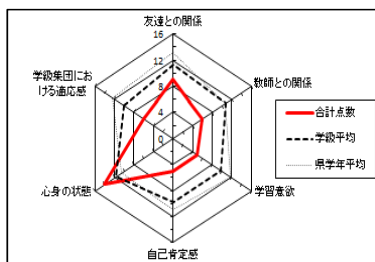


図1 1年時(11月)

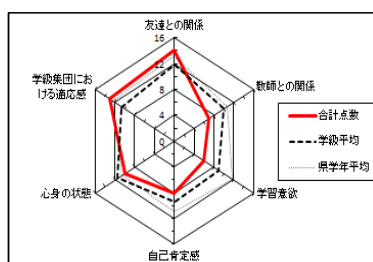


図2 2年時(11月)

表1 生徒Aの6観点の変容

区 分	1年	変容	2年
友達との関係	9	▲	14
教師との関係	6	▲	7
学 習 意 欲	5	▲	6
自己肯定感	5	▲	8
心身の状態	14	▼	10
学級適応感	7	▲	13

ア 1年時(11月)の結果の分析

図1のとおり、「心身の状態」以外の項目は全て低いポイントを示していた。特に、「自己肯定感」のポイントが低く、「他人から自分は好かれてはいない。」と生徒Aは受け取っていたことが分かった。

イ 指導・援助の方針

「自己肯定感」を高め、学級集団の中で、自己存在感をもてるように働き掛ける。

ウ 具体的な働き掛け

4月から新しい学級での生活が始まり、学級担任も代わった。「自己肯定感」のポイントが低いことにより、自己有用感や学級集団の中で存在感をもたせる取組を意図的に行い、学級への所属感を味わわせ、自己肯定感を高めさせることを念頭に置いた関わりを試みた。

時と場に応じた雰囲気作りを大切にしながらも、様々な場面で生徒との会話を丁寧に、多く行うよう働き掛けた。

様々な場面で生徒Aの出番を与え、見届け、承認し、賞賛する回数を意図的に増やした。

「学級通信」を発行した。生徒同士がお互いを認め合うことができ、保護者同士も絆が深まるような内容を吟味し発行を続けている。道徳や学級活動の時間の感想や頑張っていた生徒の賞賛については適宜掲載している。

エ 2年時(11月)の結果の分析

図2,表1のとおり,6観点中5観点においてポイントは高くなっており,特に「学級集団における適応感」の観点については,そのポイントが倍に近い値を示している。生徒Aは,学級内に自分の居場所が確保されつつある状況にある。「自己肯定感」を高めさせることを念頭に置いた様々な取組や「教師の関わり方」が効果を発揮しているものと考え。また,生徒Aは,周囲の友達に認められる存在であると同時に,友達から助けられている状況もあり,「友達との関係」も良好な状態である。

しかし,「心身の状態」についてはややポイントが低くなっている。表面上は,明るく,元気いっぱいな様子ではあるが,どこか不安な部分もある可能性がある。日々の会話を大切にしながら,今後も注意深く見守り,生徒Aに自信をもたせるような関わりを継続していく。

(3) 個への対応(生徒B:2年)

【生徒Bの概要(1年時の状況)】

生徒Bはどちらかというとおとなしく,周りに流されることなく,自分自身の考えをしっかりと持っている生徒であった。特に,問題行動等を引き起こす事もなく,友達からの信頼も厚かった。

【「学校楽しいーと」の結果による生徒Bの変容】

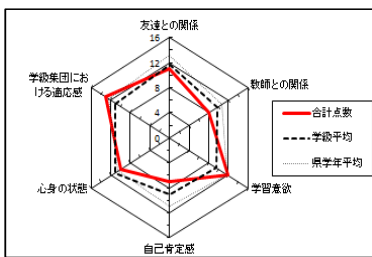


図3 1年時(11月)

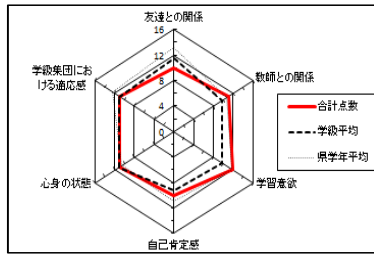


図4 2年時(11月)

表2 生徒Bの6観点の変容

区分	1年	変容	2年
友達との関係	11	↘	10
教師との関係	8	↗	11
学習意欲	12	→	12
自己肯定感	7	↗	10
心身の状態	10	↗	11
学級適応感	13	↘	11

ア 1年時(11月)の結果の分析

担任の「見立て」として,生徒Bは,「友達との関係」,「学級集団における適応感」,「自己肯定感」が高いポイントを示すと予測していた。しかし,結果は,図3のとおり,「友達との関係」,「学級集団における適応感」は,高いポイントを示していたが,「自己肯定感」が落ち込んでいる状況であった。生徒Bは,「自分は,みんなの役に立ててはいない。」と感じていたことが分かった。

イ 指導・援助の方針

「自己肯定感」を高めさせることを目的とした関わりをもつ。その中でも,特に,「みんなの役に立っている」という思いを感じさせるような働き掛けを行っていく。

ウ 具体的な働き掛け

学級の一員として、班活動を大切にし、責任をもって取り組ませるように支援した。
 班ノート（公の交換日記のようなものである。ただし、誹謗中傷は絶対に書いてはいけないという決まりがある。）に取り組ませ、他者（友達）を知る機会や他者（友達）に自分の事を知ってもらう機会を意図的に増やした。

エ 2年時（11月）の結果の分析

図4、表2のとおり、「教師との関係」、「自己肯定感」、「心身の状態」のポイントが上昇していた。他の観点も1年時よりは、下がっているものの、比較的高いポイントを維持していた。特に、「自己肯定感」は、3ポイント上昇しており、「自分は、みんなの役に立っている。」という生徒Bの実感が伺える。「教師との関係」も向上しており、教師との信頼関係も含め、「班活動を通した自己肯定感を高める支援」が効果を発揮しているものと考えられる。

(4) 個への対応（生徒C：2年）

【生徒Cの概要（1年時の状況）】

生徒Cは、明朗快活で友達からの信頼が厚く、様々な集団の中でも中心的な存在であった。

【「学校楽しいと」の結果による生徒Cの変容】

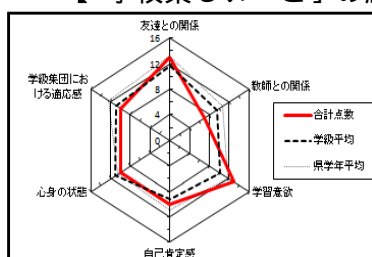


図5 1年時（11月）

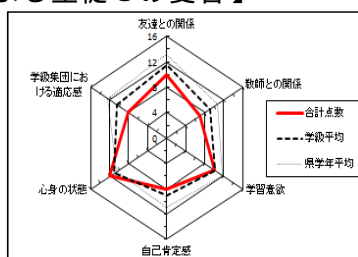


図6 2年時（11月）

表3 生徒Cの6観点の変容

区分	1年	変容	2年
友達との関係	13	↘	10
教師との関係	7	→	7
学習意欲	13	↘	10
自己肯定感	10	↘	8
心身の状態	10	↗	12
学級適応感	10	↘	8

ア 1年時（11月）の結果の分析

図5のとおり、生徒Cは、やや「教師との関係」の観点のポイントが低いものの、「友達との関係」や「学習意欲」も高く、他の観点も比較的、安定したポイントを示していた。実際、生徒Cの周囲にはいつも友達があり、充実した学校生活を送っているものと分析した。

イ 指導・援助の方針

集団におけるリーダー的立場を維持させながら指導を続けていく。

ウ 具体的な働き掛け

引き続き、生徒Cが良い意味での集団への影響力を発揮できるような関わりをもつようにする。

エ 2年時(11月)の結果の分析

図6,表3のとおり,6観点中4観点においてポイントが低くなっていた。生徒Cは,今年度,部活動のキャプテンに起用されたが,部活動内での人間関係のトラブルがこのような結果に顕著に表れているものと考えられる。今後,学級内にもトラブルとなっているチームメイトが在籍しているので,教育相談の場を活用しながら,「友達との関係づくり」の改善を起点に,「自己肯定感」を高めていく働き掛けにつなげていく必要がある。

3 成果と課題

(1) 成果

「学校楽しいーと」を実施し,ウィークポイントと捉えた観点に対して,具体的に「指導・援助の方針」を立て,働き掛けを行った生徒に対しては,観点の変容を捉えることで,その効果を確かめることができた。

「特に問題がない。」と捉えていた生徒への関わり方を見直す機会とすることができた。

(2) 課題

「学校楽しいーと」を単に使用するだけでなく,丁寧に,掘り下げて,結果を分析し,その結果を日々の教育活動に生かしていく必要がある。

「学校楽しいーと」を活用した取組は,担任だけでなく,より多くの教職員で,共通理解を図り,共通実践できるよう更に議論をしていくことが大切である。

高等学校における「学校楽しいーと」を活用した生徒指導の実践

1 本校における生徒指導上の課題

今回、調査対象となる学年は、他の学年と比べ問題行動が多く、また、集合したり落ち着くまでに時間がかかる状況があり、学年職員会等を何度も開いて生徒への対応を検討してきた。そして、頭髪服装指導をはじめ違反する生徒に対して指導を徹底してきた。一時的に問題行動は減少したが、依然としてなくなり、授業が成立しない状況も変わらなかった。そこで本年度は、対処的な生徒指導が中心であったことを改め生徒の自己指導能力の育成を目指す積極的な生徒指導を行うことにした。具体的には、「学校楽しいーと」を5月に実施し、生徒に今の自分を振り返らせ、現在の状況を気付かせるようにした。学年会、教育相談係が中心となり結果の分析を行い、どのように対応するのか指導・援助の方針を立て生徒への働き掛けを行った。再度10月に「学校楽しいーと」を実施をし、分析した結果を次に述べる。

2 実践内容

(1) 集団(学年)への対応

【「学校楽しいーと」の結果による集団(学年)の変容】

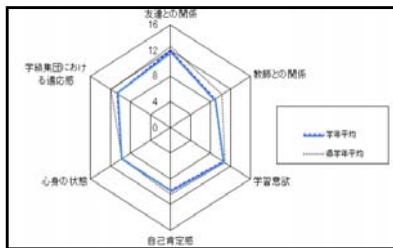


図1 5月の状況

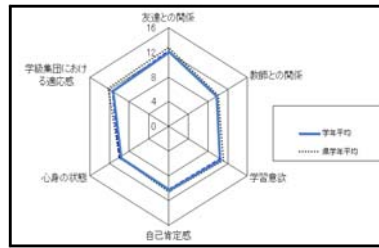


図2 10月の状況

表1 6観点の変容

区分	5月	変容	10月
友達との関係	12.0	↗	12.2
教師との関係	8.8	↗	9.8
学習意欲	10.8	→	10.5
自己肯定感	9.8	↗	10.3
心身の状態	9.8	↗	10.0
学級適応感	10.7	↗	11.5

ア 5月の結果の分析

県の学年平均と比較して、「教師との関係」、「学級集団における適応感」の2観点について特に低い結果を示した(図1)。

この学年は、落ち着きがなく、また集合に要する時間が長くなる生徒が多かったため、教師が静かにさせたり、頭髪服装を正したりと注意を繰り返してきたことが、「教師との関係」が低かった原因の一つと考えられる。また、学年職員室を生徒棟へ新設したことで、生徒が教師から、ずっと見られているという状況も「教師との関係」を低くした要因と思われる。

入学してからこれまで教師が、対処的な問題行動ばかりを注視し、生徒全体への対応が十分ではなかったと反省している。そのため生徒相互の関わりが薄くなり、学級において落ち着きがない状況が見られるように「学級集団における適応感」が低い結果になったと思われる。

イ 指導・援助の方針

改善するために、グループエンカウンター等を取り入れることを検討したが、LHRの時間はすでに計画があり、また、学校行事等も多いため特別時間割を組むことも不可能であった。よって、これまでの指導を見直し工夫改善できるところはないか検討した。積極的に生徒の話聞く機会を増やしたり、学年集会の進め方を教師からの一方的な注意や指導中心の方法から、生徒自身に考えさせる場をもつように変えたり、職場体験や販売体験、総合的な学習の時間において、教師が事前準備を説明し、個々で取り組ませていく方法から、グループを作り、その中で話し合いの場をもち、生徒に考えさせながら取り組ませて連帯感をもたせること等、行事の進め方を再検討することにした。

ウ 具体的な働き掛け

学年の教師が生徒のそばにいつもいることで、生徒を呼んで話をする機会を増やしたり、行動を共にしたり、生徒への声掛けや挨拶を積極的に行った。

頭髮服装指導をはじめ違反する生徒に対してその場での一方的な注意指導で終わらず、自己決定の場を与えるために、反省用紙を渡して、保護者とともに家庭で考えさせるようにした。本人に今後改善していきたいことを書かせ、保護者には所見を記入してもらい、担任、学年主任、生徒指導主任、教頭、校長の5名から話を行った。

学年集会を毎月1回開き、教師講話を中心に実施して、教師の経験や生徒たちへの思い等を伝えた。

総合的な学習の時間の在り方を再検討し変更した。今までは、教師からそれぞれ個々に指示を出して、受動的に研究をさせていたが、グループを作り、そのグループの中でテーマを考えさせ、それに対して内容等を検討させ調査研究をさせた。教師からの助言を必要最低限にとどめ、生徒自身で考える機会を増やした。

学校行事（職場体験、体育祭、文化祭）の中で、責任感を育てるために、個々に、応援団をしっかり集合させたり、期限内に提出物を回収させたり、完成させたりするなどの具体的な役割を与えて、できるだけ生徒主体で取り組ませるようにした。

教室の整理整頓の指導を通して、教室内の連帯感を育ませた。

エ 10月の結果の分析

図2のように、6観点中5観点の平均値が改善された。特に、5月の結果で低かった「教師との関係」、「学級集団における適応感」の2観点について大きく改善が見受けられた（表1）。改善が見受けられなかった観点は「学習意欲」であった。今後、この指導を継続しつつ、学習意欲を高める指導を検討していかなければならない。

(2) 個への対応

ア 生徒Aへの対応

【生徒Aの概要】

生徒Aは非常におとなしい性格で周りに感わされることもなく、問題行動等は全くない。学力面は低い傾向にあったが、部活動においては休まず努力を続け真剣に取り組んでいる。

【「学校楽しいーと」の結果による生徒Aの変容】

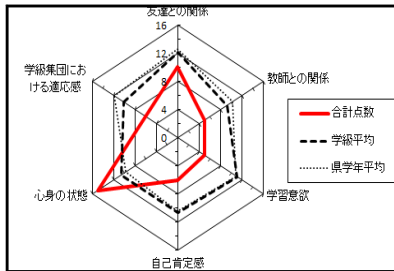


図3 5月の状況

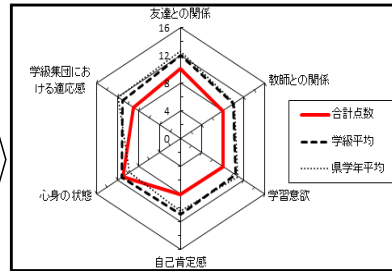


図4 10月の状況

表2 6観点の変容

区分	5月	変容	10月
友達との関係	10	→	10
教師との関係	5	↗	8
学習意欲	5	↗	8
自己肯定感	6	↗	8
心身の状態	15	↘	11
学級適応感	6	↗	9

(ア) 5月の結果の分析

普段の学校生活から、「学習意欲」が低い結果になることは予想できたが、「教師との関係」、「自己肯定感」が学級平均より大幅に低いポイントを示した(図3)。部活動においても、顧問の助言に素直に従い、高い目標に向かって取り組む姿勢ができていたとのことであったため、この結果のように、バランスの悪い結果になるとは予想できなかった。「教師との関係」が低いのは、日頃教師との関わりが希薄であると考えた。また、「自己肯定感」が低いのは、学力に起因されるものと考えた。

(イ) 指導・援助の方針

毎日、必ず担任や他の教師が声掛けや話をするを指導目標とした。

(ウ) 具体的な働き掛け

朝の校門指導時から挨拶に付け加えて声掛けを実践した。
 生徒の提出物を集める等、クラスの中で役割を積極的に与えるようにした。
 数学に苦手意識があるため、夏休みに基礎的内容の特別補習を2週間程度実施した。

(I) 10月の結果の分析

図4のように、バランスの良い結果となったことが示すように、学校生活において笑顔が絶えなくなり、積極的に生徒Aから教師へ話し掛けることが多くなった。また、数学の特別補習を実施したことで、計算問題に自信をもち、教科担任と十分な信頼関係を構築することができた。しかし、「心身の状態」の観点で5月時より低い結果となっており、特に、腹痛、頭痛など身体に影響が出ているようなので、無理をしている可能性もある。

今後、声掛け等だけでなく、相談室等の環境をしっかりと整えた場所で話をする機会を設けることや、学校カウンセラー等も活用していきたい。

イ 生徒Bへの対応

【生徒Bの概要】

生徒Bはクラスの中で誰よりも、学校行事等に積極的にに関わり、部活動も一生懸命に取り組んでいた。教師の指導に素直に応じ行動に移す姿勢が出来ており、問題行動は特に見られない生徒である。

【「学校楽しい」との結果による生徒Bの変容】

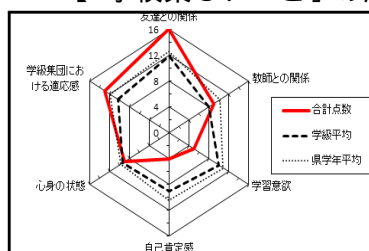


図5 5月の状況

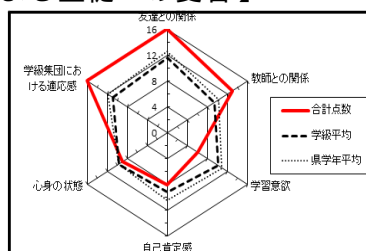


図6 10月の状況

表3 6観点の変容

区分	5月	変容	10月
友達との関係	16	→	16
教師との関係	9	↗	13
学習意欲	5	↗	6
自己肯定感	4	↗	8
心身の状態	9	→	9
学級適応感	13	↗	16

(ア) 5月の結果の分析

「学習意欲」「自己肯定感」が極めて低いポイントを示しており(図5)、成績の伸び悩みによるものと、活動的な性格であるが、クラスの中で本人の役割が明確でないところによるものと分析した。

(イ) 指導・援助の方針

学習に対する取組の改善や、進路指導を中心とした指導を展開することとした。

(ウ) 具体的な働き掛け

日々の学習時間を書き出させ、部活動と学習を両立させるための方法や苦手教科（数学）の勉強の方法、授業時の取組について、ノートの取り方や問題演習の仕方など具体的に指導をした。

進路について具体的に考えさせたり調べさせたりして、今何に取り組むべきなのか明確にさせてから少しずつ実践をさせた。

クラスマッチでキャプテンを務めさせるなど中心的な役割を与え、教師がクラスのまとめ方などを助言した。

(I) 10月の結果の分析

図6のように、「自己肯定感」の観点は、大幅なポイントの向上が見受けられた。特に、自分の役割をしっかりとやり遂げたことが大きかったと考える。「学習意欲」の観点に関しては、2学期の定期考査前には友人にも教える場面が見られ、本人の成績は大幅に改善されており喜んでいたので予想外の結果であった。教師の助言が以前より積極的に行われたことにより、「教師との関係」は大幅なポイントの向上に至った(表3)。バランスに偏りがあることが今後の指導の課題である。

ウ 生徒Cへの対応

【生徒Cの概要】

生徒Cはクラスの副委員長で、常にリーダーとして責任ある行動をとる。授業等は積極的に関わり、成績は常に上位である。

【「学校楽しいと」の結果による生徒Cの変容】

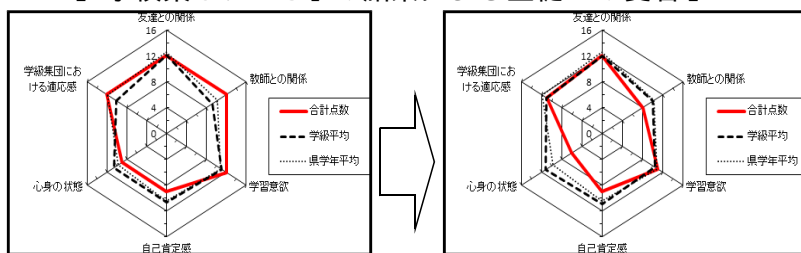


図7 5月の状況

図8 10月の状況

表4 6観点の変容

区分	5月	変容	10月
友達との関係	12	→	12
教師との関係	12	↘	8
学習意欲	12	↘	11
自己肯定感	9	→	9
心身の状態	9	↘	6
学級適応感	12	↘	11

(ア) 5月の結果の分析

普段の学校生活の様子から「教師との関係」「学習意欲」「学級への適応感」が高いポイントを示したことは予想されたが、「自己肯定感」については、見立てよりも低いポイントであった(図7)。

(イ) 指導・援助の方針

これまでどおり，リーダー的立場を維持させながら，学級活動に積極的に参加させる指導を続けていくこととした。

(ウ) 具体的な働き掛け

クラスの生徒の出欠確認や提出物の回収，連絡事項の生徒への周知徹底等，学級活動において中心的役割を担わせた。

(I) 10月の結果の分析

図8のように，「教師との関係」，「心身の状態」の観点が低いポイントとなった。普段の学校生活の様子からは予想できない結果であった。担任や教科担任は，生徒Cに連絡事項の伝達や生徒の出欠確認等任せることが多く，その責任をしっかりと果たしていたので特に心配する生徒ではなく信頼関係を築けていると感じていた。このような結果（表4）になったのは，生徒Cの思いや悩みなどを聞く機会が不足していたことや，リーダー的立場としての責任の重さによるストレスが原因ではないかと考えた。まず，本人の話をしっかりと聞いて，Cの抱えているストレスを取り除くことを優先することにした。

3 成果と課題

(1) 成果

「学校楽しいーと」を実施したことで，生徒の学校への適応感を具体的に検証する機会を得ることができた。

「学校楽しいーと」の結果を基に日常の観察から見取ることができにくい児童生徒の意識を捉えることができ，働き掛けの方針を具体的に立てることができた。

10月に再度「学校楽しいーと」を実施したことで，取組の効果がはっきりと分かり，次への課題をもつことができた。

個を大事にすることにより，集団も改善される結果となり，この「学校楽しいーと」は非常に有効であった。

生徒の状況を見ると，以前に比べ落ち着いて学校生活を送る様子や，自ら考え積極的に行動する姿勢が見られるようになった。

教師は，積極的に生徒との関わりをもつことに努め，個で生徒を指導するのではなく，学年集団として生徒の状況を共有する等連携しながら指導するようになってきた。

(2) 課題

教師によっては点数化されることにとらわれすぎる面もあった。

「学校楽しいーと」は，教師の指導の善し悪しを決定するものではなく，生徒が今何を思っているのか学校生活を過ごしているのか指導方法を見付ける手段として活用することが大事である。

教師の共通理解・共通実践を図るために，職員研修会を開催し，「学校楽しいーと」を活用する意義について理解を深めていく必要がある。

「学校楽しいーと」の調査結果を有効活用するためには，生徒指導部，教育相談係等と連携して企画，計画，分析，事後指導を推進できる組織作りが必要である。